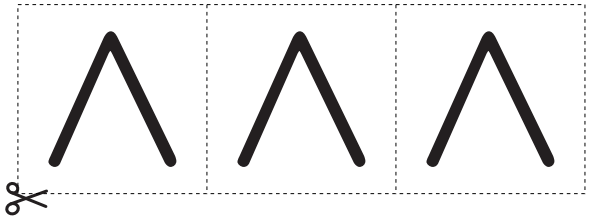

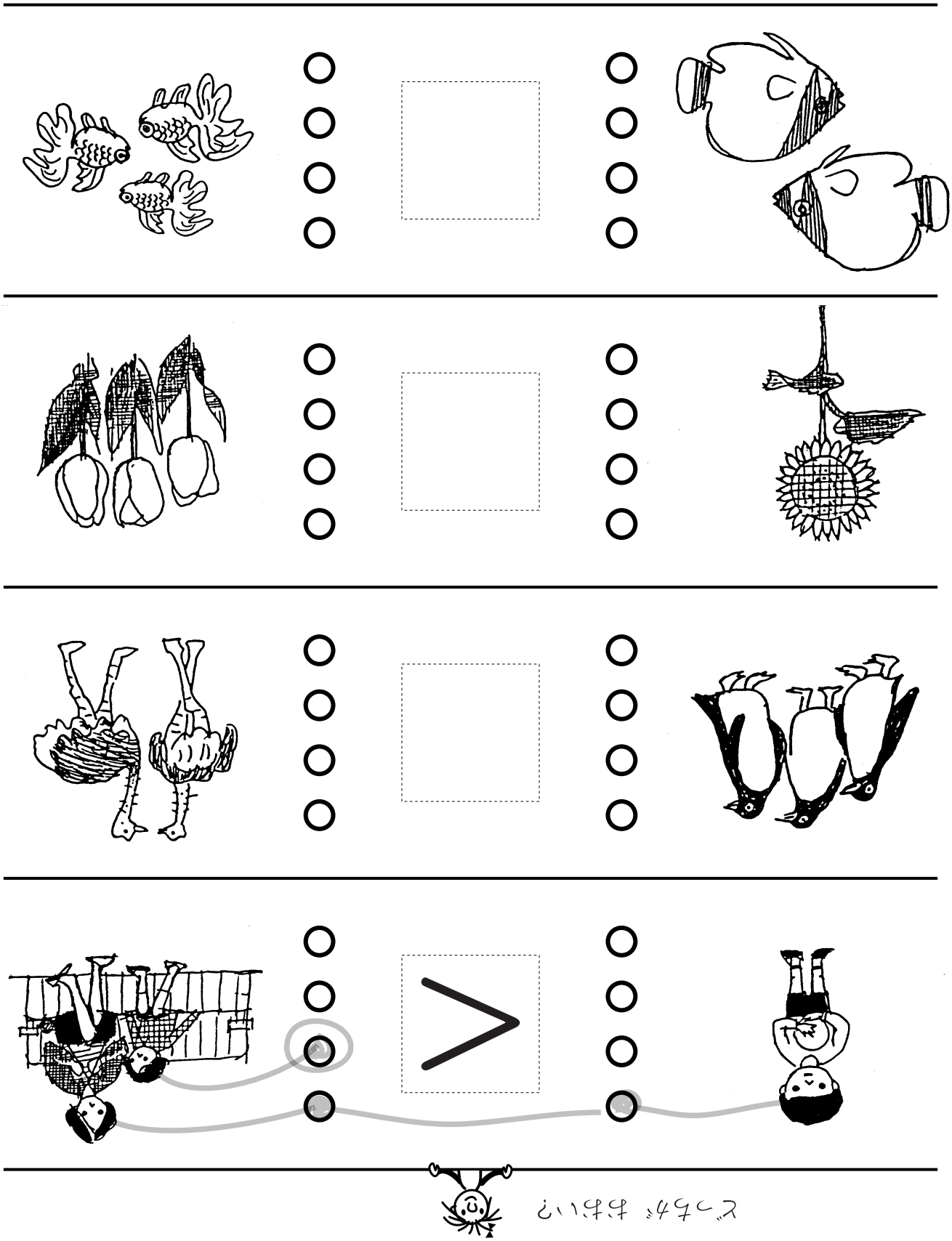

どっちが多い
○を介した対応手続き
3276 © Adeamland

1)「どっちの方が多いか」を、モノとモノの直の対応操作でなく、間に○を介した対応操作で了解する課題。
2)まず、モノと○を線でつなぎ、その分の○だけ塗る。
3)塗った○と○を線でつなぎ、余りを囲んで不等号を置く。

a)仲介する○は、推移律「A=B,B=CならA=C」の「B」に相当し、数の機能を果たす。「B」の個々のケースに名前をつけたものが数である。
b)不等号による表現形式になじむ記号体験。
c)直感的に判断できる3までの数で手続きを了解する。

Date ／
Note
評